

地域安全学会

2014年度第2回理事会 議事録

日 時：2014年7月19日（土）15：00～17：00

場 所：同志社大学東京オフィス（東京都中央区京橋2丁目7番19号 京橋イーストビル3階）

出席者：立木茂雄、目黒公郎、池田浩敬、市古太郎、梅本通孝、越村俊一、重川希志依

庄司学、西川智、秦康範、牧紀男、宮野道雄、村尾修、森伸一郎、山崎文雄、田中聡

委任状：糸井川栄一、岩田孝仁、大原美保、岡田成幸、柄谷友香、清野 純史、鍬田泰子、能島暢呂、
松岡昌志、村上ひとみ、大西一嘉

欠 席：加藤孝明、井野盛夫、矢代晴実

事務局：竹本加良子、上木美貴恵

- 配布資料：26-2-1 2014年度第2回理事会議事次第（立木）
26-2-2 2014年度第1回理事会議事録案（立木）
26-2-3 2014年度地域安全学会役員名簿案（立木）
26-2-4 会員数、会費納入状況（竹本）
26-2-5 H26年会費—未納者リスト（竹本）
26-2-6 国際交流事業の繰越金対応について（竹本）
26-2-7 国際交流事業の残高の管理について（竹本）
26-2-8 残高試算表（竹本）
26-2-9 事業別損益計算書（竹本）
26-2-10 2014年度地域安全学会収支計算書（竹本）
26-2-11 ニュースレター88号案（2014年08月）（庄司）
26-2-12 東日本大震災連続ワークショップ2014 in 宮古（村尾）

議題：

1. 前回議事録の確認（立木）

資料 26-2-2 の前回議事録（案）について、下記2点の修正点以外は、原案通り承認された。

- ・「4. 2014年度副会長の選定」の本文
井川先生 → 糸井川先生 に修正
- ・「5. 東日本大震災連続ワークショップ2014 in 宮古」の本文
田老市 → 田老町 に修正

2. 2014 年度役員担当 (立木)

2014 年度役員の担当及び顧問は以下の通りである。 ※マーカー箇所は変更点

	立木 茂雄*	同志社大学社会学部	
副会長	糸井川栄一	筑波大学システム情報系	総務(会員・広報)担当
副会長	目黒 公郎*	東京大学 生産技術研究所	学術(研究・国際交流(正))担当
理事	池田 浩敬*	常葉大学大学院環境防災研究科	秋季研究発表会実行委員会(正)
理事	市古 太郎	首都大学東京大学院都市環境科学研究科	総会・春季研究発表会実行委員会(正)
理事	岩田 孝仁*	静岡県危機管理部	秋季研究発表会実行委員会(副)
理事	梅本 通孝#	筑波大学システム情報系	研究運営委員会(副)
理事	大西 一嘉	神戸大学大学院工学研究科	表彰委員会(正)、東日本大震災特別委員会担当
理事	大原 美保	独立行政法人土木研究所 水災害リスクマネジメント国際研究センター 水災害研究グループ	
理事	岡田 成幸	北海道大学大学院工学研究院	総会・春季研究発表会実行委員会(副)
理事	加藤 孝明*	東京大学 生産技術研究所	防災学協会連合組織担当
理事	柄谷 友香	名城大学都市情報学部	国際交流委員会(副)、広報委員会、東日本大震災特別委員会担当
理事	清野 純史*	京都大学大学院工学研究科	選挙管理委員会(副)
理事	鍛田 泰子#	神戸大学大学院工学研究科	
理事	越村 俊一*	東北大学 災害科学国際研究所	広報委員会
理事	重川希志依*	常葉大学大学院環境防災研究科	
理事	庄司 学*	筑波大学システム情報系	広報委員会(副)
理事	田中 聡	常葉大学大学院環境防災研究科	学術委員会(正)
理事	西川 智#	独立行政法人 水資源機構	国際交流委員会(副)
理事	能島 暢呂*	岐阜大学工学部	研究運営委員会(正) 選挙管理委員会(正)
理事	秦 康範#	山梨大学工学部	広報委員会
理事	牧 紀男	京都大学防災研究所	学術委員会(副)(電子ジャーナル(正))、防災学協会連合組織担当
理事	松岡 昌志	東京工業大学大学院総合理工学研究科	学術委員会(電子ジャーナル副部長)、広報委員会(学術委員会担当)
理事	宮野 道雄	大阪市立大学 大学運営本部	選挙管理委員会(正)
理事	村尾 修*	東北大学 災害科学国際研究所	広報委員会(正)、東日本大震災特別委員会担当
理事	村上 ひとみ	山口大学大学院理工学研究科	選挙管理委員会(副) 国際交流委員会
理事	森 伸一郎	愛媛大学大学院理工学研究科	表彰委員会(副)
理事	矢代 晴実*	防衛大学校システム工学群	安全工学シンポジウム担当
監事	井野 盛夫	常葉大学環境防災学部	
監事	山崎 文雄*	千葉大学大学院工学研究科	

*2014 年度末に改選予定の理事・監事, #2014 年度新規選出

顧問

伊藤 滋	小川 雄二郎	梶 秀樹	片山 恒雄	亀田 弘行
熊谷 良雄	高野 公男	長能 正武	濱田 政則	林 春男
村上 處直	村上 雅也	室崎 益輝	宮本 英治	吉井 博明
翠川 三郎				

3. 会計・会勢・会員管理関係（竹本）

(1) 会計・会勢・会員管理関係の報告

2014/7/14(月)時点での2014年度の会員数・会費納入状況は以下の通りである。

会員種別	会員数	内、新規 会員数	会費納入者数	会費未納者数	未納の割合
賛助会員(※)	1	1	1	0	0.0%
正会員	589	29	358	231	39.2%
学生会員	97	23	43	54	55.7%
総数	687	53	402	285	41.5%
割合	100.0%		58.5%	41.5%	

※5/30に株式会社パスコ様が賛助会員としてご入会

【回収済会費】

賛助会員（10万円）×1社+正会員（5,000円）×358人+学生会員（2,000円）×43人=1,976,000円

【未収会費】

賛助会員（10万円）×0社+正会員（5,000円）×231人+学生会員（2,000円）×54人=1,263,000円

2014/7/14(月)時点での2013年度の会員数・会費納入状況は以下の通りである。

会員種別	会員数(※)	会費納入者数	会費未納者数	未納の割合
正会員	565	467	98	17.3%
学生会員	88	53	35	39.8%
総数	653	520	133	20.4%
割合	100.0%	79.6%	20.4%	

※2014/3/31時点の会員数のため、4月以降の退会者も含まれています。

【回収済会費】

賛助会員（10万円）×0社+正会員（5,000円）×467人+学生会員（2,000円）×53人=2,441,000円

【未収会費】

賛助会員（10万円）×0社+正会員（5,000円）×98人+学生会員（2,000円）×35人=560,000円

会費未納者への対応については、9月の第3回理事会時点での会費未納率に基づき、必要に応じて会費未納者への対応を検討する。

(2) 国際交流事業の残高の管理について

国際交流事業の2013年期末の残高は216,332円であった。

今後も残高を管理するために、「貸借対照表」の「普通預金」に「うち、国際交流事業用資金」の項目を追加し、国際交流事業の期末の残高を今年度の資金として管理することとした。

4. 学術委員会関係（牧）

(1) 研究発表会論文（No.24）の現状について

- ・投稿論文数：58編（うち、取り下げ論文：1編、形式審査落ち論文：2編）
- ・一次審査通過論文数：43編
- ・査読料は全員支払い済みである。

(2) 査読料の返金について

形式審査で落ちたとしても査読料は返金しないこととする。

そのため、電子ジャーナル (No.25) から、論文募集の査読料の納入の箇所に、「形式審査で不備があっても返金しない」旨を注意書きとして記載する。

なお、取り下げ論文となった場合はこれまで通り返金する。

(3) 査読システムのサーバについて

現在運用している株式会社サイエンスクラフトのサーバの稼働が不安定なため、さくらインターネット株式会社のレンタルサーバへ査読システムを移行する。

レンタルサーバの利用料金は、月額税込みで 515 円である。

電子ジャーナル (No.25) より、レンタルサーバでの運用を開始する。

(4) 電子ジャーナル (No.25) についての報告

電子ジャーナル (No.25) の募集を 8 月より開始する。

運用費は、予算に計上した通りの 91,800 円である。

5. 研究運営委員会関係 (梅本)

研究運営委員会について、糸井川先生から梅本先生へ引き継ぎを行う。

6. 広報委員会関係 (庄司)

(1) ホームページについて

各委員は、ホームページの該当箇所を適宜修正する。

(2) ニュースレターについて

ニュースレターについて、柄谷先生から秦先生へ引き継ぎを行う。

資料 26-2-11 にあるニュースレターの原稿作成担当者は、8 月 8 日の締め切りまでに原稿を提出する。

7. 2014 年東日本大震災連続 WS 関係 (村尾)

5 月に宮古市の方と打合せを行い、会場はそれぞれ下記の場所に決定した。

1) ワークショップ (研究発表会) : ビジネスホテル宮古ステーション古窯 大ホール

2) 親睦会 : ホテル近江屋 宴会場

3) シンポジウム : 岩手県立大学宮古短期大学部 大講義室

シンポジウムについては、宮古市と学会での共同開催となった。2 時間の枠のうち、講演は岩手大学の南先生にお願いをしている。残りの時間については、杉安先生方に市民向けの防災教育をお願いするなど検討中である。

なお、宮古市の方に田老の復興のお話をお願いできないか依頼したところ、住民向けとは

いいがたい内容のため、日曜のシンポジウムではなく、土曜の研究会であれば可能とのお返事をいただいた。

スケジュールは下記の通り。

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 10月18日(土)(1日目) | 12時～13時 受付開始 |
| | 13時～17時 開会式／ワークショップ |
| | 18時～20時 懇親会 |
| 10月19日(日)(2日目) | 10時～12時 シンポジウム |
| | 12時～13時 昼休み |
| | 13時～17時 被災地および復興状況見学会 |

費用については下記の通り。

- 1) ワークショップ(研究発表会)会場費:6時間で貸し出し料10万8,000円
- 2) 懇親会参加費:1人5,000円(税抜き)
- 3) シンポジウム会場:4時間 5,200円

詳細が決まり次第、全会員にメール等で周知する。

8. 国際交流関係(牧・立木)

(1) 第3回国際都市防災会議(ICUDR3)

一次審査が終了した。本論文の締切は大幅に延期になり9/1となった。

ポスター発表と論文発表については投稿者に連絡が入っている。

若手研究者への旅費助成については、アブストラクト投稿の段階で一次審査をし、最終的には8月15日締め切りのextended paperの審査をもって、1人20万円まで補助を出す予定である。

7月末までには、渡航費助成金については、EERIより学会に入金がある予定である。

(2) 第2回アジア都市防災会議(ACUDR2)

11月20日(木):キーノートレクチャー(立木)
フィールド・サーベイ(台湾側でアレンジ)

11月21日(金):国際会議(英語版)
パネルディスカッション
・セッション(リカバリー)担当:牧理事
・セッション(レジリエンス)担当:森理事

セッション1・2の渡航費は台湾側がもつ。

渡航費は3人まで補助が出る。

9. 2014年度秋期大会関係(池田)

梗概集、論文集ともに4,000円で販売する。

懇親会の会費について、正会員は6,000円、学生会員は3,000円とする。

ポスター発表は、10月3日を締め切りとし、投稿料は10,000円で4ページまでとする。

秋季大会の開始時間は、午後からの予定である。

1 0. 安全工学シンポジウムについて (矢代)

報告事項なし

1 1. 防災学協会連合組織 (目黒)

防災学協会連合組織には約 30 学会が所属している。

昨年までの活動は、4～5 学会を幹事学会として、テーマに沿ったシンポジウムを毎年開催しており、今年はこれまでの活動の集大成として位置付けられている。各学会から会長・副会長先生にご参加いただき、お話しいただいた内容を基に議論する予定である。11 月 29 日に開催され、当会からは、糸井川先生にご参加頂く。

これまでの一連の活動について、日本語と英語で宣言文を作成し、来年 3 月の国連防災世界会議に提出する予定である。

1 2. その他

・2015 年 3 月の国連防災世界会議関連国際会議について

日本の地域安全学会、台湾危機管理学会、韓国防災学会の 3 学会共催によるセッションを計画している。

2005 年に神戸で開催された第 2 回 国連防災世界会議の関連イベントとして、地域安全学会では、第 1 回 国際都市防災会議を開催した。このイベントを通じ、実務者及び研究者の交流という役割を果たしたため、今回も同様の役割を果たすべく国連防災会議関連国際会議を開催する。

企画の内容は、半日程度のセッションのなかで、アジア各国の防災の実務者・経験者のうち、若手・中堅どころの方に現状をご報告いただくことを予定している。

国際交流担当として、本イベントの推進に積極的に関わっていただけるよう、西川先生と牧先生で情報を共有する。

会場は、東北大学内の教室等をお借りすることは可能だが、3 月は仙台の宿泊施設の確保が難しいため、場所・開催日等検討が必要である。開催場所・開催日等によって、国連防災世界会議の正式の関連イベントとするかどうかとも検討する。

○ 次回理事会 9/6 (土) 15:00 ～ 17:00 (場所は調整後連絡する)

代表理事

立木 茂雄



監 事

山崎 文雄

